

公民科（公共）学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 3単位
- 2 実施日時 令和7年 月 日(水) 第 時限
- 3 学 級 年組(名)
- 4 使用教科書 『詳述公共』(実教出版)
- 5 単元(題材)名 現代の経済社会
- 6 単元(題材)設定の理由

<生徒観>

知識及び技能の習得は見られるが、それを現代社会の諸課題に適用し、多角的な考察を経て自らの考えを形成する力や論拠をもって表現する力の伸長に課題を残している。また、公的な見方や考え方を構造的に理解することには至っておらず、主体的に社会へ参画する意識を喚起する指導の充実が必要である。

<教材観>

現代の経済社会における事象や課題に関する基礎的な知識や諸原理を含めた経済についての概念等を習得させられるとともに、幸福、正義、公正等の観点を基に討議させることで、公的な空間に生きる主体として解決が求められる諸課題について、事実を基に協働して考察したり構想したりすることの重要性を理解させることができる。

<指導観>

経済における効率と公正の調和について、ICTを活用して情報共有し、幸福、正義、公正等の観点を基に討議することで、現代社会が直面する課題に対して自ら最適解を模索する力を伸長させるとともに、効率と公正の調和のバランスが社会に及ぼす影響について認識した上で、公的な空間の担い手として責任ある判断を下せる力を育成したい。

- 7 単元(題材)の目標

経済の基本原則、経済主体の役割、現代社会が抱える経済的な諸課題について理解するとともに、現代社会が抱える経済的な諸課題(少子高齢化に伴う社会保障費の増大や技術革新による新たな格差等)について、様々な資料を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現することができる。

単元を貫く問い

経済における効率と公正の調和は可能か。

- 8 単元(題材)の評価規準

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
経済の基本原則、経済主体の役割、現代社会が抱える経済的な諸課題に関する知識を身に付けている。現代社会が抱える経済的な諸課題に関する様々な資料を分析・考察できている。	現代社会が抱える経済的な諸課題に関して、習得した知識や分析した資料を活用しながら、根拠をもって自らの意見や構想を表現できている。	経済の基本原則、経済主体の役割、現代社会が抱える経済的な諸課題に関して学習し、協働して考察・討議することで合意を形成することの意義を見いだしている。

- 9 指導計画 単元名 現代の経済社会 全7時間

第一次 公正かつ自由な経済活動・・・5時間【○知、●思、●態】

第二次 財政及び租税の役割・・・1時間【○知】

第三次 財政の課題・・・1時間

第1時 財政危機と財政再建・・・【●思】(本時)

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

単元の指導計画

時程	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一次 5時間	<p>【単元を貫く問い】 経済における効率と公正の調和は可能か？</p>				
	<p>【第一次の問い】 公正かつ自由な経済活動を成立させるためにはどうすればよいのか？</p>				
	<p>◇経済の基本原則、経済主体の役割、現代社会が抱える経済的な諸課題に関する知識を身に付ける。</p> <p>◇習得した知識や分析した資料を活用しながら【第一次の問い】についてグループで討議し、その内容を基に自らの考えをまとめる。</p> <p>◇【第一次の問い】についての自分たちの考えを踏まえて、学習を振り返る。</p>	○	●	●	<p>○経済の基本原則、経済主体の役割、現代社会が抱える経済的な諸課題に関する知識を身に付けている。</p> <p>(評価資料) : テスト</p> <p>●課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想している。</p> <p>(評価資料) : Microsoft Forms の記述</p> <p>●公正かつ自由な経済活動を成立させるために学びを深めていくことの意義を見いだしている。</p> <p>(評価資料) : Microsoft Forms の記述</p>
第二次 1時間	<p>【第二次の問い】 現代の日本の財政と租税にはどのような特徴と課題があるのか。</p>				
	<p>◇財政及び租税の役割に関する知識を身に付ける。</p>	○			<p>○財政及び租税に関する知識を身に付けている。</p> <p>(評価資料) : テスト</p>
第三次 1時間 本時	<p>【第三次の問い】 効率と公正を調和させて財政の課題を解決する手段としての合意形成のあり方とは。</p>				
	<p>◇習得した知識や分析した資料を活用しながら【第三次の問い】についてグループで討議し、その内容を基に自らの考えをまとめる。</p> <p>◇【単元を貫く問い】に関する自分たちの考えを踏まえて、学習を振り返る。</p>		●		<p>○課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想している。</p> <p>(評価資料) : Microsoft Forms の記述</p> <p>○公共的な空間の担い手として、効率と公正の調和の重要性を認識し、責任ある判断を下すことの意義を見いだしている。</p> <p>(評価資料) : Microsoft Forms の記述</p>

10 本時の指導目標

公共サービスの提供における「税金」と「料金」の違いや、その財源負担のあり方について、効率と公正の観点から多面的に考察し、自分の考えを根拠に基づいて論理的に表現できる。

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入	<p>【単元を貫く問い】 経済における効率と公正の調和は可能か。</p>			
5分	<p>急な増税に対してどのように感じるか、Microsoft Forms で投票し、痛税感の原因は何か発表する。</p>	<p>税金を支払う際(あるいは増税時)に感じる不快感や負担感が何に起因するのか、生徒自身に気づかせ、納得して負担するためには、受益が実感できることが重要であることを確認させる。</p>		
展開	<p>【本時の問い】 効率と公正を調和させて財政の課題を解決する手段としての合意形成のあり方とは。</p>			
1 20分	<p>救急車の有料化の賛否について個人で考え、投票する。</p>	<p>賛否を考える前提として、救急車の出動件数が増加傾向にある一方、搬送人員数の約半数が入院の必要のない軽症者であるというデータを提示する。</p>		
	<p>救急車の有料化の賛否についてグループで話し合い、発表する。</p>	<p>有料化する場合は「どのような条件で、いくらに設定するのか」も考えさせ、効率と公正を調和させた財源負担は実現可能か検討するよう促す。</p>		
	<p>救急車の有料化の賛否について個人で考え、投票する。</p>	<p>1回目の投票と2回目の投票の結果を比較することで、多面的な見方を通して考察することの重要性に気づかせる。</p>		

展開 2 10 分	社会保障や公共サービスを持続可能なものにするにはどうすればいいのかグループで話し合った後、自分の考えをワークシートに記入する。	納税者として税金の使途や財源負担のあり方を厳しくチェックし、選挙等を通じて政治を評価することの重要性に気づかせる。 協働して考察・討議することで合意を形成することの意義に気づかせる。	課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想している。 【●思】	ワークシート (Microsoft Forms) の記述
まとめ 10 分	【単元を貫く問い】に関する自分たちの考えを踏まえて、学習を振り返る。			

12 評価の目安と目標実現のための手立て

A	十分満足できる	経済の基本原理に関する知識を適切に用い、効率と平等の構造的な対立を明確に捉えている。また、経済的な諸課題について、統計・データなどの資料を客観的に分析した上で、妥当性、実現可能性、持続可能性という多角的な視点から深く検討し、その調和を図る具体的な政策や方策を論理的に構想している。
B	おおむね満足できる	経済の基本原理に関する知識を用い、効率と平等の構造的な対立を捉えている。また、経済的な諸課題について、統計・データなどの資料を分析した上で、妥当性、実現可能性、持続可能性の調和を図る政策や方策を構想している。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	話し合いが進まない場合は、社会保障が「世代間の支え合い」で成り立っているイメージ図（現役世代が減少しているグラフなど）を提示し、現状の仕組みを維持する難しさを視覚的に理解させた上で、妥当性と持続可能性の観点から検討するよう助言する。